

令和3年度 一般社団法人日本登山医学会第1回理事会議事録

1. 開催日時：2021年5月28日（金）18：00～19：30
2. 開催場所：香川大学地域医療再生医学教室（各役員はWeb会議システムで参加）
3. 出席者：

出席者名：臼杵尚志、橋本しをり、大城和恵、草鹿 元、井出里香、大橋教良、斉藤篤司、高山守正、夏井裕明、夏井正明、野口いづみ、油井直子、齋藤 繁（監事）、花岡正幸（監事）、山本正嘉（監事）

欠席者名：増山 茂（監事）

4. 議長の選出

定刻に至り司会者草鹿 元（事務局長）は開会を宣し、令和3年度第1回一般社団法人日本登山医学会理事会が一般社団法人日本登山医学会定款第30条に基づき成立せる旨を告げ、議長の選出を諮ったところ満場一致を以て臼杵尚志代表理事が議長に選任せられた。次いで議案の審議に入った。

5. 議事の経過の要領及び議決せる事項

臼杵尚志代表理事が開会の宣を以て議事に入った。

<審議事項>

第1号議案 事務局年度最終報告・新年度計画

竹田光宏顧問税理士より令和2年度決算報告が行われた。

令和2年度決算については、広告、印税収入が若干減少し、コロナ禍によりDiMMの講習・実技等を延期および中止したことによる減少なども含め、法人全体では収入が50%以上減少した。しかし一方で、持続化給付金200万円、第40回学術集会からの寄付金約49万円、個人からの寄付金50万円と合計300万円程度の収入があった。令和2年度は学会誌がまだ発行されておらず、支出が大幅に減少した。学会全体としての収支は、約470万円の黒字となった。令和2年度末の純資産は約1500万円となり、昨年より増額し、学会の安定運営には良いと思われる。

令和3年度予算案については、草鹿 元事務局長より、概ねコロナ禍以前の例年通りを予定する旨、説明があった。

問題なく監査が行われたことが齋藤 繁監事、花岡正幸監事より報告があった。

以上、議場に諮ったところ、承認可決された。

第2号議案 理事選挙結果と監事の繰り上げについて

令和3年4月に実施した理事選挙の結果が報告され、監事の山本正嘉先生が理事に当選し、監事に1名欠員が出たため、次点を繰り上げすることが報告された。

理事当選者：大平幸子、小野寺昇[※]、金澤英紀、草鹿 元、斉藤篤司、榊原嘉彦、夏井裕明、夏井正明、橋本しをり、原田智紀、山本正嘉、油井直子

監事：上小牧憲寛[※]、齋藤 繁、花岡正幸、増山 茂

※理事会後に、理事の辞退希望者が出たため、後日繰り上げ当選

以上の結果が報告され、上記当選者をそれぞれ当法人の理事、監事に選任することを議場に諮ったところ、承認可決された。

第3号議案 授与賞について

令和3年度功労賞は、松林公蔵氏に授与されることが確認された。

以上、議場に諮ったところ、承認可決された。

第4号議案 各常設委員会活動について

各委員会から、事業に関する報告がされ、審議事項が提出された。

① 登山者検診ネットワーク委員会（夏井裕明委員長）

約1年半、海外トレッキングツアーが開催されていないので、委員会としての活動はなかった。今後は海外ツアーの活動次第であり不確定である。

② 山岳診療委員会（高山守正委員長）

昨年夏の診療所はほとんど閉鎖していた。正確な診療所開設数については5月30日の山岳診療委員会（WEB開催）の報告で明らかになる予定である。

今年は、概ね多くの診療所で開設予定だが、学生がどこまで参加できるのかなど、制限が多い診療所もあるようである。具体的な開設予定については、各診療所のホームページなどに掲載をお願いする予定。またコロナ対策についても、昨年は、学会で推奨される対策が概ねなされており、今年も同様に安全に考慮した形で開設予定である。

③ 研究委員会（斉藤篤司委員長）

前回の理事会報告以降は特に新たな報告事項はなし。富士山研究については今年も難しい状況。重症高山病データベース関連については3月以降新たな動きはないが、今年度は活動はできると考えている。予算計上については、旅費が9月の研究委員会のみとなるため、予定の半額でよいと思われる。富士山プロジェクトと重症高山病データベースは予算計上しない。

④ 編集委員会（夏井正明委員長）

「登山医学」40巻の発刊が滞っている。査読の過程から最終原稿の受理まで、多くの時間を費やした。今後は査読の過程でスピードアップしたい。「登山医学」41巻についても今年中の発刊を目指す。臼杵代表理事より、第41回学術集会は例年通りの日程なので、学会誌も極力例年通り、年内発行をお願いしたい旨、発言があった。

⑤ 高山病診療ガイドライン作成委員会（大城和恵委員長）

現在滞っているが、徐々に進行はしている。次年度の学術集会までにある程度の方向性が見えるようにしたい。昨年度申請した予算は今年度に繰り越す。

⑥ 専門制度委員会（草鹿 元委員長）

今年度より DiMM は再スタート、専門医制度は新規スタートとなっている。専門看護師制度は次年度からのスタートに向け、パブリックコメントの募集などが開始されている。

DiMM についてはコロナ禍においても、WEB 講習などを極力取り入れ、感染防御に留意しながら今年度はスタートしている。ただ、実技演習や検定など、対面でしかできないクラストもあり、これについては感染に十分注意しながら行っていきたい。

臼杵代表理事より、感染に十分注意して行うよう、指示があった。今年度予算請求は WEB 講習の講師謝金など 30 万円を計上する。

⑦ 学会賞選定委員会（大橋教良委員長）

第40回学術集会田中賞は松本共立病院の市川智英先生に決定している。METs と代謝に関する論文で、非常によくまとまった興味深い論文であった。大城和恵先生の協力で、第41回の学術集会ホームページに発展講演を WEB で発信する。（現時点では第41回の学術集会ホームページには載っていないので、入れ替え；発展講演に関しては、第41回の学術集会ホームページまたは学会ホームページに掲載するなどを検討する。）

⑧ 運営委員会（橋本しをり）

3月以降大きな変更点はないが、ICAR がオンライン開催に変更になった。

広告宣伝費については一般会員からも募集中であり、現在2名から申し出があった。

⑨ 倫理委員会（野口いづみ委員長）

小野寺先生と協議中である。

⑩ 選挙管理委員会（井出里香委員長）

4月の理事選挙の開票結果については第2号議案で報告したとおりである。新理事会での

役員選挙は、ZOOM を利用したオンライン投票に変更することとなった。極力スムーズに行えるよう、詳細を検討中である。臼杵尚志代表理事から、ZOOM を使用した投票方法などについて説明があった。

⑪ 将来検討委員会（臼杵尚志）

コロナ禍の現状で、2年間何もできなかった。今後、長期的展望を話し合える委員会として、次期理事会に引き継ぐ予定である。

臼杵尚志代表理事より学会名簿管理システムである「Moodle」について草鹿 元事務局から説明するよう指示があった。今まで煩雑であった会員名簿管理をデジタル化・集約化し、学会運営に役立てていく予定であり、近いうちに本格的な運営が開始となる予定である。

以上、議場に諮ったところ、承認可決された。

第5号議案 来年度以降の学術集会の準備状況について

第41回学術集会について（大城和恵）

北海道の緊急事態宣言を受け、開催方法が全面オンライン開催に変更となり、令和3年5月29～30日に開催予定であることが報告された。理事の方々の協力に対して感謝の言葉があった。

第42回学術集会準備状況については黒田 敏大会長（富山大学）に代わり、臼杵尚志代表理事から日程と会場等の予定について報告がなされた。

第43回学術集会については、埼玉県の大宮で、自治医科大学附属さいたま医療センターの講堂を使用して、比較的小規模に行う予定であることが草鹿 元大会長より報告された。

第44回学術集会については、水腰 英四郎大会長（金沢大学）に代わり、臼杵尚志代表理事から、来年度以降に準備予定であることが報告された。

以上、議場に諮ったところ、承認可決された。

第6号議案 自然退会者の承認

2年以上年会費を滞納した自然退会者リストが供覧され、承認された。

以上、議場に諮ったところ、承認可決された。

第7号議案 その他の議題

- ・終身会員、名誉会員の推戴について、今年度は該当者がいないことが確認された。
- ・臼杵尚志代表理事より、慶弔規定の作成について、次期理事会に引き継ぐことが報告され

た。

・草鹿 元事務局長から、今後の学会誌の発行媒体についてと、学会誌の広告費の獲得について、若干の問題提議や協力要請があった。

・高校総体開催と当学会の協力体制について、臼杵尚志代表理事より、現在、全国高等学校体育連盟に詳細を問い合わせ中であることが報告された。

以上、議場に諮ったところ、承認可決された。

以上を以て、令和3年度第1回一般社団法人日本登山医学会理事会の議案全審議を終了した。

以上